

新井中央小だより

No. 276

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html>メールアドレス chuou@ac.city.myoko.niigata.jp

2022(令和4)年10月28日

「制約があるからこそ」

10月9日(日)、大運動会を実施しました。昨年に引き続き雨天順延とはなりましたが、予定した全ての競技を無事行うことができました。

新型コロナウイルス感染症対策による様々な制約から、今年度も競技は各学年の徒競走と、奇数学年の団体競技と、偶数学年の全員リレーのみとし、午前半日日程で行いました。時間短縮のために開会式は7日(金)に行いました。子どもたちは競技開始直前までマスクを着用、応援も、声を出すのは応援リーダーのみ、その指示に合わせて応援グッズを打ち振っての応援となりました。

保護者の皆様にも参観は一家庭2名までとし、動線や使用トイレも児童と分けて、感染拡大防止にご協力いただきました。

さて、ここまでお読みいただいて、「制約にがんじがらめで、なんだか寂しい運動会だな」と感じられた方も少なくないと思います。

ところが、実際は工夫に満ちた、楽しく・白熱した大運動会になった、と私は思っています。



「1年：げんき！チェッコリ玉入れ」ダンスと玉入れを組み合わせたその可愛さに、応援席で一緒に踊り出す上級生が続出。結果も、なんと2回戦の合計玉数が同点で引き分け！競技としても大興奮でした。

例えば6年生のリレーでは、明確な目標設定をして練習を重ね、チームのタイムを記録し続けたことで、結果発表では順位以上に全チームの新記録達成に喜び合う姿が見られました。

応援では、声を出せないのも、応援グッズを工夫し、赤組はうちわ、白組はハリセン、それぞれにスローガンと自分の目標を書き込み、夢中になって応援する姿が見られました。

同様に、それぞれの学年が徒競走でも団体種目やリレーでも様々な工夫や配慮をして取り組んできた成果が、子どもたちの様子から感じられ、とてもうれしくなりました。

大運動会の勝負は2種目を残して総合得点差は僅かに2点。子どもたちは最終種目まで優勝の行方は分からない、という白熱した勝負を楽しみました。

制約があるからこそ、新たな工夫や配慮を重ね、新しい可能性ややり方を見いだすという営みは、この大運動会に限らず、今、教育活動全般で行われています。そしてそれは、いずれ新型コロナウイルス感染症の心配が不要になったときに、更なる教育活動の充実に活かされていくはずです。

いつの日にかきっと実現する、「晴れ晴れと保護者・地域の皆様と一緒に楽しめる大運動会」に思いをはせつつ、本年度の充実した大運動会を楽しむことができました。

大会運営にご協力いただいたPTA役員、上越教育大学の皆様、各ご家庭でお子さんを見守り励ましてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。(校長 村治 隆夫)